

平成31年 新年のご挨拶



揖斐川町長

富田 和弘

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様には、平成31年の新春を健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃は町政に対しまして、格別なご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、2018年を振り返りますと、「数十年に一度」「記録的な」と形容されるほどの災害や、異常気象が頻発した年でありました。

2月の北陸地方における記録的な大雪から始まり、6月の大阪北部における震度6弱の直下型地震、7月の記録的な豪雨、夏の記録的な猛暑、9月の強烈な台風と北海道胆振地方東部で発生した、最大震度7という大きな地震など、次々と発生する災害に、改めて自然の脅威を実感するとともに、災害に対する備えの重要性を再認識いたしました。

当町におきましては、特に夏の猛暑に対し、繰り返し熱中症予防を呼びか

けるとともに、子どもたちの安全で快適な学習環境を整備するため、一部の学校で空調設備の改修工事を実施し、今年の夏までには、全ての学校の空調設備の改修を完了するよう最優先課題として取り組んでおります。

また、長時間の停電や断水被害をもたらした台風災害につきましても、病院やライフラインに関わる施設を優先的に復旧すること、復旧作業の支障となる倒木などの除去作業における協力体制など、停電の早期復旧に向けた対応方針について、中部電力を含め協議を行いました。今後、今後も常に見直しを行い、改善・改良・工夫をしながら、減災・危機管理対応力の強化に努めてまいります。

町民の皆様におかれましても、過去の常識にとらわれず「正しい知識の習得」「最新情報の入手」「早期行動」を心がけていただくとともに、地域における自主防災組織や地域コミュニティの強化を図られますよう、お願いいたします。

災害だけでなく、揖斐川町を取り巻く社会情勢についても、少子高齢化や人口減少、これらに関連する過疎化の進展や地域活力の低下など、厳しい状況が続いておりますが、このような時だからこそ、様々な地域課題に対して、行政だけでなく町民の皆様と一緒に、行政だけ知恵を出し、共に取り組み、行動していくことが必要であります。

そのためには、揖斐川町のもつ資源等を見直し、新たな付加価値をつけることにより、国内外から誘客、交流人口の増加、産業の活性化に繋がる取り組みを進めることが重要であると考えております。

その一つとして、「谷汲さん」の愛称で親しまれている「谷汲山華厳寺」は、日本最古の巡礼路とされる「西国三十三所巡礼」の第33番札所満願霊場として名高い寺院であり、昨年は草創1300年を迎えました。

現在、更なる魅力アップを図るために、西国三十三所観音巡礼の日本遺産

登録に向け、地域の皆さんと一体となって事業を進めております。

また、豊かな河川環境の有効活用を進めるために、岐阜県が管理する粕川におきまして、瑞巖寺の粕川オートキャンプ場など両岸の一部区域、約2万5千平方メートルを、美濃地方で初めて「都市・地域再生等利用区域」に指定していただきました。

この周辺は既に、粕川オートキャンプ場やパターゴルフ場、河川空間を利用した公園などがあり、年間を通して多くの皆様にご利用いただき、大変賑わっておりますが、今回指定を受けたことで、河川区域内で民間事業者によるイベントや、飲食店経営などの営利活動を常時行うことが可能になりました。

今後は、地域の皆さんや関係者の皆さんと連携しながら、より一層魅力のある賑わいの場の創出と、地域の活性化が図られるよう、指定区域の活用を行ってまいります。

更に、地域の皆さんの自主的活動を



支援するための「小さな一歩応援事業」も行っており、平成30年度におきましては、4団体の事業を採択いたしました。こうした各団体の取り組みを、一人でも多くの町民の皆様を知っていたでき、その活動をお互いに応援することにより、まちづくり活動の輪が広がり、



揖斐川町議会議長

成瀬 雅弘

町の元気につながっていくものであると考えておりますので、住民の皆さんの積極的な事業活用を期待しております。今年5月の改元に伴いまして、新たな時代がスタートいたしますが、「まちづくり未来センター会議」など、住民の皆さんと一緒に進めるまち

新年明けましておめでとうございます。す。

町民の皆様におかれましては、輝かしい平成31年の新春をお健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げますとともに、日頃より、町政発展のために多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、福井県池田町と揖斐川町を結ぶ国道417号「鶴見バイパス」の開通、国道303号横山バイパス整備において「(仮称)鉄嶺トンネル」のトンネル掘削着手、アメリカ合衆国セントジョージ市とのマラソン等を通じた交流の30周年記念、久瀬振興事務

所の竣工など、様々な事業や施策が展開されました。

また、町民の皆様と町が協力して、町の課題や将来をみんなで考える「いびがわ未来センター会議」が昨年に引き続き行われました。この事業は、住民の皆さんとともに揖斐川町の未来のまちづくり像を描くという事業であり、その取り組みが大いに期待されています。

一方で、急速な少子高齢化による人口の減少、生産年齢人口の減少による農林業、商業の担い手不足と賑わいの衰退、魅力ある雇用の場の確保、環境問題への取り組みなど喫緊の課題も多

づくりや、次世代を担っていく「子ども達のための未来投資」を行っていくことが、「この町に住んでよかった」と実感できるまちにつながっていくものと確信しております。

め、どうか本年も、町政に対する変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、本年が町民の皆様にとって良い一年でありますことを、心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

く残されています。

さらに、昨年9月の北海道胆振東部地震をはじめ、全国で多くの自然災害が発生しています。本町においても、7月豪雨による土砂災害、9月の台風21号による大規模停電が発生しました。これらの災害を目の当たりにして、ますます防災力強化の必要性を感じたところでございます。減災に向けた「自助」・「共助」・「公助」の体制を強化し、実効性の高い地域防災力の向上が求められています。

揖斐川町議会では、議会内に議会改革、公共交通、基盤整備、海外戦略などの特別委員会を設置し、より開かれた議会、活性化した議会改革の推進、養老鉄道・コミュニティバス・樽見鉄道などを合わせた公共交通の再生、冠山峠道路の早期完成、鉄嶺トンネル、都市計画道路などの事業推進、海外からのインバウンドの推進等に全力で取り組んでいます。

近年は、地方分権の進展により、住民に身近な存在である議会とその議員の果たすべき役割や責務は、ますます増大してきております。

議会の役割は、予算案などの議決のみではなく、地域の実情、住民の皆様の声を行政に反映させることにあります。

町民の代表である議会といたしましては、執行機関とお互いに切磋琢磨しながら、まちづくりの主役は町民の皆様であることを第一に、揖斐川町第二次総合計画に定めるまちの将来像「自然健康のまち いびがわ」の実現に向けて、鋭意努力してまいりたいと考えております。

年頭に当たり、皆様のますますのご多幸を心からお祈り申し上げますとともに、町議会への一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。